

〔伊呂波字類抄〕病瘡〔霍亂〕

シリヨリククチヨリコクヤマヒ

〔同久〕病瘡〔霍亂〕如字

〔二〕中歷^{十三}列危物 路頭霍亂人

〔類聚名物考〕病瘡^二霍亂 去りよりくちよりこくやまひ 和名抄

是はもと病名にあらず、病者の状態によりて名付しものにて、用を體とせしなり、揮霍撩亂として、身を悶て手足を振まはすやうなる病態をいへる詞なり、

〔異疾草紙〕霍亂といふ病あり、はらのうち苦痛さすがごとし、口より水をはき、尻より痢をもらす、悶絶顛倒して、まことにたえがたし、

〔醫心方^十〕治霍亂方第一

病源論云、霍亂者由人温涼不調、陰陽清濁二氣有相干亂之時、其亂在於腸胃之間者、因遇飲食而變發、則心腹絞痛、其有先心痛者則先吐、先腹痛者則先下利、心腹並痛者吐利俱發、挾風而實者身熱頭痛、體疼而復吐利、虛者但吐利、心腹刺痛而已、亦有飲酒食肉腥膾生冷過度、因居處不節、或露臥濕地、或當風取涼、而風冷之氣歸於三焦、傳於脾胃、脾胃得冷則不磨、不磨則水穀不消化、亦令清濁二氣相干、腸胃虛弱、便致吐利、水穀不消、則令心腹脹滿、皆成霍亂、霍亂有三名、一名胃反、言其胃氣虛逆返吐飲食也、二名霍亂、言其病揮霍之間、便致撩亂也、三名走哺、言其哺食變逆者也、養生方云、七月食蜜、令人暴下發霍亂也、

〔叢桂亭醫事小言^三〕霍亂 中暑

霍亂ハ喝也ト雖、喝ハ傷暑也、是ハ耕夫旅客ナド、炎天金モ鏢スホドノ大暑ニ力行シテ、眩暈暴熱シテ倒レナドスルノコトニテ、史記ニ禹扇喝ト見ユ、又淮南子ニ、武王陰喝人于越下、左擁而右扇之トアリ、皆傷暑ノコトナリ、霍亂ハ素問ニ出、病形ノ有様ヲ以名付タリト諸書ニ見ユ、其形ハ腹痛甚ク、手足逆冷、大汗出、煩渴乾嘔、轉筋六脈細伏ス、是ハ老壯ノ別ナク、一晝夜ホドニ死生ノ有コ